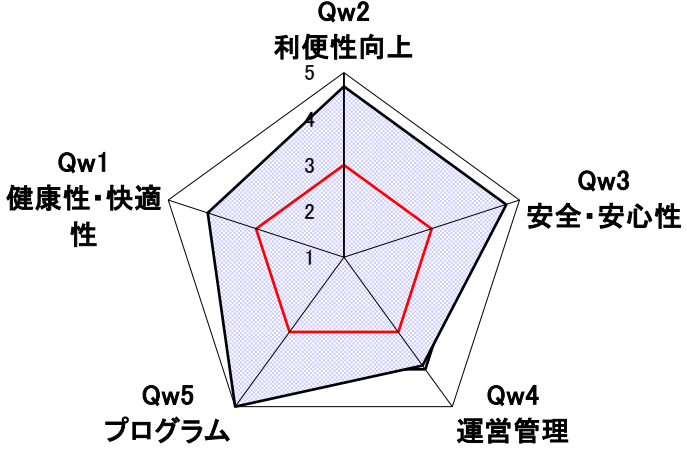


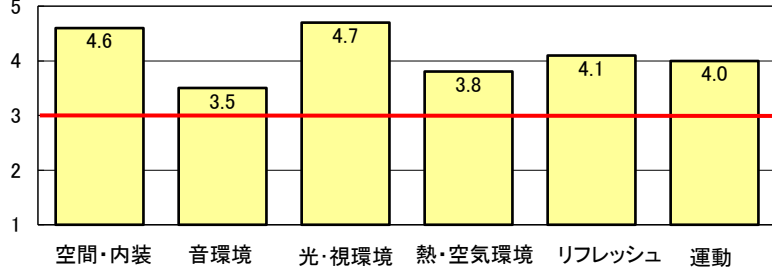
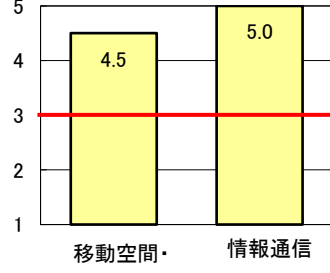
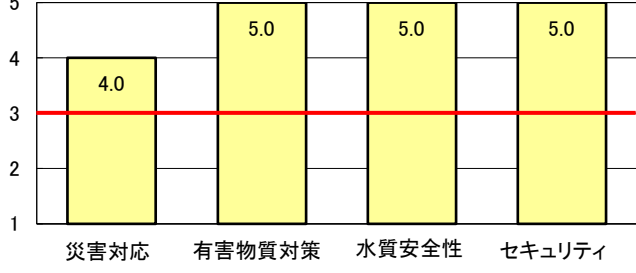
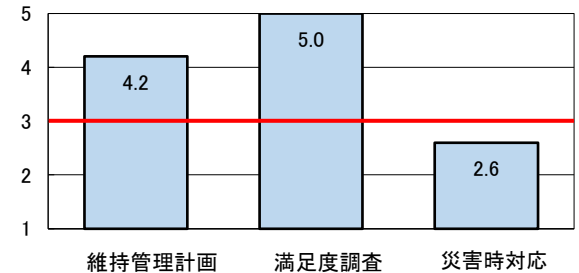
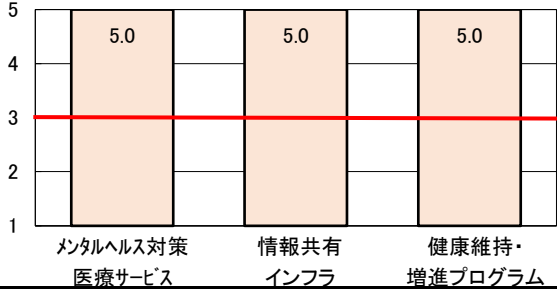
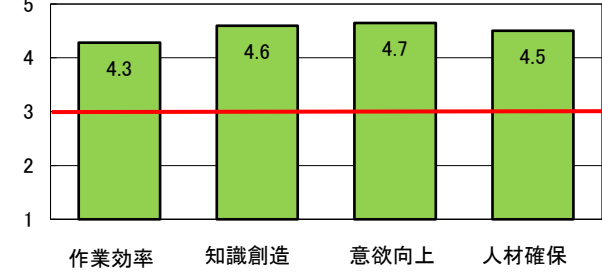
CASBEE®-ウェルネスオフィス

評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-ウェルネスオフィス2021年版 ■使用評価ソフト：CASBEE-WO_2021(v1.1)

1-1 建物概要				1-2 評価パターン	
建物名称	カゴメビル	階数	地上11F地下1F	評価対象	パターン2
建設地	愛知県名古屋市中区	構造	S造	1-3 外観	
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	500 人		
地域区分	6地域	年間使用時間	2,080 時間/年(想定値)		
建物用途	事務所	評価の段階	設計段階(竣工後1年未満)評価		
竣工年	2022年5月 竣工	評価の実施日	2022年5月31日		
敷地面積	522 m ²	作成者	カゴメアクシス(株) 世永 博一		
建築面積	446 m ²	確認日	2022年10月30日		
延床面積	4,428 m ²	確認者	カゴメアクシス(株) 世永 博一		

2-1 総合評価	2-2 大項目の評価(レーダーチャート)
Rank: S 82.1 /100  S ランク:★★★★★ > 75 A ランク:★★★★☆ ≧ 65 B+ランク:★★★★ ≧ 50 B-ランク:★★★ ≧ 40 C ランク:★★ < 40	

2-3 中項目の評価(バーチャート)			
基本性能			
Qw1 健康性・快適性 Score= 4.1 	Qw2 利便性向上 Score= 4.7 	Qw3 安全・安心性 Score= 4.7 	
運用管理		プログラム	
Qw4 運営管理 Score 3.9 	Qw5 プログラム Score = 5.0 	参考: 知的生産性の視点に基づいた評価	
			

3 設計上の配慮事項		
総合		
ABWとフレキシブルをコンセプトとしたフリーアドレスのオフィス、新たに個人ワークやWEB 会議にも最適な集中ブースを設置。ビル内装を野菜をコンセプトとした統一感のあるデザインとし、1階のキッチンフロアは、社名「カゴメ」の由来であるトマトを収穫する際の「籠(かご)の目」をデザインしたユニークな内装としている		
Qw1 健康性・快適性 1 Fロビーから吹き抜け壁面緑化された階段を配して、階段利用を促進し、利用者の健康維持に配慮した。ABWベースのフレキシブルなワークスペースとし、昼光利用の調光照明、直膨式全熱交換機と室内機をゾーン別に配	Qw2 利便性向上 専有部内はパーティションフリーな解放感ある空間とし、ABWベースのフレキシブルな什器レイアウトとなっている。固定電話レス、高速WIFI、60VA/m2の電源を配置。どこでも快適にワークできるワークスペースを実現	Qw3 安全・安心性 建築基準の25%増の耐震性を備え、一部制振機能を設置して、地震動、強風、前面道路からの振動へ対応している
Qw4 運営管理 中長期修繕計画は既存自社ビルすべてで立案、毎年ローリングを実施している。竣工したカゴメビルでも立案を予定している	Qw5 プログラム カゴメ全グループでメンタルヘルスを向上するための取り組みを実施。ストレスチェックおよび、独自の施策メンタルヘルスeラーニングを継続実施。また資格を持つカウンセラーを設置。カゴメビルには保健師が常駐。独自のメンタルヘルス対策を実施。社員の野菜摂取量を測定す	その他 名古屋市CASBEE名古屋Sクラス認証建物としてパネル展示が市役所にてありました。また名古屋市の「人にやさしい街づくりの推進に関する条例」に適合した建物として2022年12月に認定されました。1Fのキッチンは天井の籠の目デザインなどオリジナリティある内装デザイ

CASBEE-ウェルネスオフィス2021年版 カゴメビル		バージョン CASBEE-WO_2021(v1.1)	欄に数値またはコメントを記入
スコアシート			
配慮項目		環境配慮の概要記入欄	評価点
総合評価			4.2
Qw1 健康性・快適性			4.1
1 空間・内装			4.6
1.1 レイアウトの柔軟性	1.1.1 空間の形状・自由さ	執務スペースは無柱空間で長方形。利用形態によりゾーニング可能	5.0
	1.1.2 荷重のゆとり	全執務スペースが4900N/m ² である。(ろ)(は)の割増しは無い	4.0
	1.1.3 設備機器の区画別運用の可変性	各室でゾーンにより区画系統分けされ運用可能	5.0
1.2 知的生産性を高めるワークプレイス		ABWでフレキシブルなレイアウトができるワークプレイス	5.0
1.3 内装計画	1.3.1 専有部の内装計画	ノンパーティションでフレキシブルな内装。野菜の会社をテーマに内装	5.0
	1.3.2 共用部の内装計画	野菜の会社をテーマに内装コンセプトを統一、バイオフィリックデザイン	5.0
1.4 作業環境	1.4.1 オフィス什器の機能性・選択性	キャスター付きの台形デスクの組み合わせによるフレキシビリティ。高	5.0
	1.4.2 OA機器等の充実度	自社フロアWiFi完備、ICカード認証印刷・入退室、固定電話レス、内線	5.0
1.5 広さ		2F,4Fともに一人当たりの執務面積が6m ² を超えている	3.0
1.6 外観デザイン		社名を(籠の目)モチーフにしたビル外観とし、ランドマークとして広く認	4.0
2 音環境			3.5
2.1 室内騒音レベル		騒音レベル[dB]が45程度	3.0
2.2 吸音		天井に岩綿吸音板、床にカーペットを使用。間仕切り内に吸音材使用	4.0
3 光・視環境			4.7
3.1 自然光の導入		調光式照明、照度センサーを使用した昼光利用している	5.0
3.2 グレア対策	3.2.1 開口部のグレア対策	庇と外壁の縦ルーバーおよびブラインドの組み合わせによるグレア制	4.0
	3.2.2 照明器具のグレア対策	器具ルーバーによるグレア対策を実施	5.0
3.3 照度		机上照度750lux以上を確保	5.0
4 熱・空気環境			3.8
4.1 空調方式及び個別制御性		空調方式及び個別制御性に対して、標準以上の配慮が行われてい	3.0
4.2 室温制御	4.2.1 室温	冬期24℃、夏期26℃の室温を実現できる仕様を計画	3.0
	4.2.2 外皮性能	窓、外壁共に室内への熱侵入に対して十分な配慮 BPI=0.81	4.0
4.3 湿度制御		夏季の除湿、冬期40%の湿度を実現可能な設備と設備容量が確保	4.0
4.4 換気性能	4.4.1 換気量	1人30m ³ 建築基準法、建築物環境衛生管理基準を満たす換気量の	4.0
	4.4.2 自然換気性能	自然換気有効開口面積が居室床面積の1/30以上	5.0
5 リフレッシュ			4.1
5.1 オフィスからの眺望		天井高が2.7mあり、執務室の東側と南側に窓が設置されているた	5.0
5.2 室内の植栽・自然とのつながり		オフィスの自席のほとんどの部分から植栽を見ることができる。	4.0
5.3 室外(敷地内)の植栽・自然とのつながり		外構、屋上に植栽を設置。日常的には自然に触れることはできない。	2.0
5.4 トイレの充足性・機能性		適正な器具数を確保し、機能評価取り組み数 9個	4.0
5.5 給排水設備の設置自由度		執務室内にキッチン等水回り設置可能。1F専用部内キッチンを設置	4.0
5.6 リフレッシュスペース		各階専用部にリフレッシュスペースがあり、給水機、自販機、冷蔵庫な	4.0
5.7 食事のための空間		1Fキッチン設置、調理が可能であり食事をとれるスペースも十分に用	5.0
5.8 分煙対応、禁煙対応		敷地内は完全禁煙。喫煙者への禁煙プログラム等もある。	5.0
6 運動			4.0
6.1 運動促進・支援機能		運動促進・支援機能はない。	3.0
6.2 階段の位置・アクセス表示		建物2つの入口からアプローチしやすい場所に内階段を配置。開放的	5.0
Qw2 利便性向上			4.7
1 移動空間・コミュニケーション			4.5
1.1 動線における出会いの場の創出		1F～5Fまで吹き抜けの健康階段、フレキシブルなレイアウトで動線を	5.0
1.2 EV利用の快適性		標準以上の輸送能力、EV内モニターの設置、キャンセル機能など	5.0
1.3 バリアフリー法への対応		バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準(最低限のレベル)の半	3.0
1.4 打ち合わせスペース		個別執務、チームミーティング等用途に応じた打合せスペースが多数確	5.0
2 情報通信			5.0
2.1 高度情報通信インフラ		電源 40VA/m ² 以上、通信回線は引き込み2重化、異なる通信業者利	5.0

Qw3 安全・安心性			4.7
1 災害対応			4.0
1.1 耐震性	1.1.1 躯体の耐震性能	建築基準の25%増の耐震性能で設計施工されている	4.0
	1.1.2 免振・制振・制震性能	波形鋼板壁を構造に組み込む制振装置を導入し、部分的に地震時・信頼性の内部設備保護が図られている	4.0
	1.1.3 設備の信頼性	信頼性において、評価する取組みが2つある。	3.0
1.2 災害時エネルギー供給		レベル4を満たし、共用部だけでなく専有部に対しても一部の電力供給が可能である	5.0
2 有害物質対策			5.0
2.1 化学汚染物質		内装仕上でF☆☆☆☆の仕様としている	5.0
2.2 有害物質を含まない材料の使用		PRTR制度における対象物質を含有しない建材種別が4つ以上ある。	5.0
2.3 有害物質の既存不適格対応	2.3.1 アスベスト、PCB対応	対象外	-
	2.3.3 土壌汚染等対応	対象外	-
3 水質安全性			5.0
3.1 水質安全性		安全基準を満たす給水管材が選定され、給水設備異常も機械的にビル管理委託会社へ自動通知されるように現場調査が開始される	5.0
4 セキュリティ			5.0
4.1 セキュリティ設備		24H遠隔監視する防犯設備があり、異常時はビル管理委託会社が現地へ対応する体制が構築	5.0
Qw4 運営管理			3.9
1 維持管理計画			4.2
1.1 維持管理に配慮した設計		内装設計で防汚性が高く、埃のたまりにくい設計をしている。段差のないフロア	3.0
1.2 維持管理用機能の確保		適切なスペースの清掃用具室と管理倉庫がある。	4.0
1.3 維持保全計画		維持保全計画を定期的に更新する体制が構築されている。	5.0
1.4 維持管理の状況	1.4.1 定期調査・検査報告書	対象外	-
	1.4.2 維持管理レベル	対象外	-
1.5 中長期保全計画の有無と実行性		中期保全計画の実施体制が確立しており計画が実行されている。	5.0
2 満足度調査			5.0
2.1 満足度調査の定期的実施等		満足度調査を年に1回以上実施している	5.0
3 災害時対応			2.6
3.1 BCPの有無		ビル運営においてBCP計画を作成しており、入居組織のBCPも把握して、相互に連携する体制を構築している	2.0
3.2 消防訓練の実施		消防計画を作成し、法令及び消防計画に基づく消防訓練を行っている	3.0
3.3 AEDの設置		建物内に設置されている	3.0
Qw5 プログラム			5.0
1 メンタルヘルス対策、医療サービス		全社で独自のメンタルヘルス対策を実施している	5.0
2 情報共有インフラ		社内社外で円滑に情報を共有する仕組みがある	5.0
3 健康維持・増進プログラム		室内換気レベルCO2モニター設置、様々な健康増進の仕組みがある	5.0